

[公益5] 大学教職員の職能開発及び大学教員の表彰

5-1 情報通信技術を活用した優れた授業研究の評価と表彰

<事業計画>

情報通信技術を活用した教育力の向上を推進するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「ICT利用による教育改善研究発表会」を実施し、優れた教育方法の実践を選定・評価するとともに表彰し、インターネット等による公表を通じて情報通信技術による教育改善を啓蒙・普及する。

<事業の実施状況>

事業の実施は「ICT利用教育改善発表会運営委員会」を継続設置して、ICT利用による教育改善研究発表会を開催し、優れた教育方法を選定・評価し、表彰した。以下に、委員会及び研究発表会の活動状況について報告する。

ICT利用教育改善発表会運営委員会

平成24年5月12日、6月18日、25年1月26日、3月5日に平均6名又は7名が出席し、4回開催した。ICTを利用した教育力の向上を推進するため、「ICT利用による教育改善研究発表会」を実施し、1次選考及び2次選考を通じて優れた教育の取り組みに対して表彰を行った。また、研究論文の査読を行い、論文誌に掲載して刊行するとともに本協会のWebサイトで教育改善の啓蒙・普及を行った。以上の他、選考基準及び選考方法を明確化するため、「ICT利用による教育改善研究発表に関する選考および表彰規程」をはじめ、運営・組織内規、論文誌刊行に関する内規を見直すことになり、実態に合わせて改正した。

(1) 発表募集の改善

研究発表が教育実践された内容に基づくものであることを客観化できるよう、ICTを利用したことによる教育改善成果を統計データを用いて明示させるために募集要項に例示を入れて募集することにした。

(2) 研究発表の選考

① 運営委員会で59件の応募について書類選考を行い、55件の発表を確定したが、後日2件の辞退があり、最終的な研究発表は53件となった。

② 1次選考は、24年8月10日に東京理科大学で発表者と参加者189名で開催した。選考規程に基づき、次のような基準で選考した。

- * 教育上の問題解決を図るためにICT利用による教育改善の目的・目標が明瞭になっていること。
- * ICTを利用した教育改善の内容と方法が明瞭になっていること。
- * 客観的かつ具体的な成果により、教育改善の目的・目標が達成されたことが示されていること。
- * 本発表会で過去に授賞している場合、その当時の研究発表からさらなる発展性が見られること。

その結果、8件を選考した。詳細は、巻末のⅢ. 事業報告の附属明細書【2-12】を参照されたい。

- ③ 2次選考は、10月6日に実施し、1次選考の発表ビデオと発表論文をもとに授賞基準に沿って実施した結果、以下の通り、奨励賞2件の授賞を決定した。

平成24年度受賞者

★奨励賞（2件）

「構造力学の理解を深める補助教材の開発とその効果について」

日本大学 中山 晴幸

〔授賞理由〕

本研究は、構造物への力学的展開とその解法を学ぶ「構造力学」において、学生が理解しにくい座標系の使い分けや、数式展開によらず具体的な力のイメージを描かせるための補助教材として、体感型の自己学習用パッドと演習サイトを活用することで、学生自身に理解度を把握させながら苦手分野の克服に貢献している。

「学際的チーム体制により開発した薬学6年制教育支援システムと主体的な学習時間の確保」

北海道医療大学 二瓶 裕之、他5名

〔授賞理由〕

本研究は、6年間の一貫したカリキュラムの中で学びの連続性を持たせた学習支援を行うため、教員が一体となって全科目の支援システムを開発し、授業時間外での問題演習など主体的な学習時間の確保や、学内の薬学共用試験、薬剤師国家試験の合格に一定の役割を担っている。他の医療分野も含めた汎用的な情報共有基盤として発展を期待したい。

(3) 選考結果の表彰

表彰は、24年11月27日の第5回臨時総会で発表者を招待して実施した。

(4) 論文誌の発行

- ① 取り組み内容によって筆者が研究論文の分量を選択できるよう、ページ数を6ページから4ページ以上6ページ以内に変更した。また、これまでは「研究論文」と「研究ノート」の枠を設けて掲載していたが、二つを区別することが困難なため「研究論文」とした。
- ② 2次選考の対象論文について査読を行い、8件の論文を確定し、24年11月27日に論文誌「ICT活用教育方法研究」として1,900部発行して加盟校に配布した他、本協会のWebサイトで公表した。